

ダイヤモンドの一カラットは0.2g

結婚指輪や婚約指輪を選ぶ際には、「カラット(Ct)」という基準を目にする機会が多いかと思いますが、カラットはダイヤモンドの価値を決めるひとつの尺度で、重さを表し、一カラットは0.2gです。

ダイヤモンドの価値は、「4C」で決まる
ダイヤモンドの価値を決める国際基準には、「4C」が用いられるのが通例です。

具体的には、
ダイヤモンドの重さを表す「カラット(Carat)」、
色合いを示す「カラー(Color)」、
透明度を表す「クラリティ(Clarity)」、
研磨技術の度合を示す「カット(Cut)」の4つです。

カラットは「サイズ感」と捉えている方が少なくないですが、実は「宝石の重さ」を表す単位。

1カラット(1.0ct)のダイヤモンドの直径は、およそ6.5mm前後です。0.5カラット(0.50ct)ではおよそ5.15mmとなります。

また、メートル法などがなかった時代、物の重さを量るのに植物の実を使ったり、長さを計るのに人の歩幅を使ったりしていた頃に、地中海沿岸では、重量の軽い宝石の重さを量るのに「イナゴ豆(キャロブ)」と言う豆を使っていました。

ギリシャ語でキャラティオンと呼ばれる「イナゴ豆(carob)」は、重さがほぼ0.2gとそろっていたので、宝石類の重さを量るのに丁度良く、いつ頃からか、宝石の重さを量る単位は「キャラティオン」「キャロブ」を語源とする「カラット = 0.2g」に統一されていました。

通常、カラット数が2倍になると価格は約4倍、カラット数が3倍になると価格は9倍以上。自乗計算で考えてみると、おおよその目安が分かります。

婚約指輪や結婚指輪に最適な「カラット」は？

では、実際の婚約指輪や結婚指輪では、どのくらいのカラット数が人気なのでしょうか。

アメリカなどでは、平均1カラット前後とかなり大きなダイヤが人気ですが、最新の「ゼクシィ結婚トレンド調査2016調べ」によれば、日本の婚約指輪で選ばれているのは「0.2~0.3カラット」が最多で、次いで「0.3~0.4カラット未満」が続きます。この2つを合わせると全体の約2/3を占めており、迷う方は、0.2~0.4カラット数あたりを選ぶと間違いはなさそうです。

一般的にはカラット数が大きくなるほど、石の存在感があり、強い輝きを放つゴージャスで華やかな指輪に。逆にカラット数が小さくなるほど、清楚で可憐な雰囲気指輪になります。デザインや着けられる方の好みで選ぶとよさそうです。

目安で言うならば、0.3カラット程度が女性の指に着用したときにおとなしすぎず、派手すぎない印象を与える平均的なサイズ感。国内ブランドでは最も売れ筋のため、デザインも豊富で、お気に入りの指輪も探しやすいでしょう。

1カラット超え！



すべて1点もの！現品処分
大粒の天然ダイヤモンド！

Dian POOL